

# 導入事例集

## ～地域医療連携編～

---

いつでも どこでも  
リアルタイムに医療情報を共有



# 目次

---

1. [中核病院での活用事例](#)
2. [事例① 仙台厚生病院:チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮](#)
3. [事例② 医療法人社団健心会 みなみ野循環器病院:クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進](#)
4. [クリニックでの活用事例](#)
5. [事例③ 霞クリニック:LOOKRECで検査画像をリアルタイム共有](#)
6. [番外編① N2クリニック四谷:クリニックでの治療と経過観察、紹介までの一連の画像管理に](#)
7. [番外編② 医療法人社団活寿会:クリニック間の連携が可能なクラウド型PACSとして](#)
8. [導入後の流れ](#)
9. [無料トライアル・お問い合わせ](#)
10. [エムネスについて](#)

# 中核病院での活用事例

---

## 事例① 仙台厚生病院

チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

---



# 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮



仙台厚生病院 様

【専門】消化器

【業種】中核病院

【お話を伺いした方】齋藤先生

【課題】地域の病院との連携をどう図るか

- 導入の背景      緊急疾患が発生した場合に円滑に紹介いただくため、治療戦略のディスカッションをスムーズに行うため
- 導入の決め手      LOOKRECは**安価**ですし**簡単**ですぐ使えた。**画像があるからこそ分かることは非常に多い**
- 導入後の効果      コンスタントに患者さんを紹介いただいている。病院に到着して **最短40分でオペを始められるケースも**

# 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

## ■ 導入の背景

### クラウド画像共有が有効に活用できる距離

東日本大震災で有名になりましたが、仙台には海側の地域があって街があります。その一つが仙石病院のある石巻です。

仙台市の医療圏からは少し離れている地域になりますので、例えば大動脈解離のような緊急の疾患の対応に困ることがあります。重症な疾患が発生したときに即座に受け入れられるかという、そういう時ばかりではありません。仙台厚生病院から石巻は救急患者を紹介してもらう距離としては遠すぎない絶妙な距離です。これより遠いとLOOKRECで画像を連携しても間に合わないかもしれませんが、LOOKRECのすぐに連携できる機能が活用できる距離といえます。

また、一旦地域の仙石病院でCTを撮ってLOOKRECで送ってもらうことで、疾患の特定と手術や治療の必要性を判断することができるのもLOOKRECの利点です。

仙台厚生病院は循環器、呼吸器、消化器に選択・集中している病院なので、この領域での緊急疾患が発生した場合に円滑に紹介いただくためにLOOKRECを活用しています。

# 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

## 画像があるからこそ分かることは非常に多い

例えば脳梗塞やくも膜下出血でも専門の先生でないと結構わからないんですよね。本当にくも膜下出血なの？ということもあります。

また、くも膜下出血なのはわかるけれど、すぐに治療が必要なのか、それともそうじゃないのか。あるいは治療戦略としてはどういうことを考えられるのかが、画像を持っていればある程度目処がつけられます。

同じようなことを循環器とか私の専門の消化器でもあるので、画像をそのまま共有してもらえると、これは診断確定で間違いないと確信を持って受け入れられる。いろいろな治療の準備ができる。これはすぐに治療が必要だとか、治療の戦略はこれというものが立てられるというメリットがあるんです。



# 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

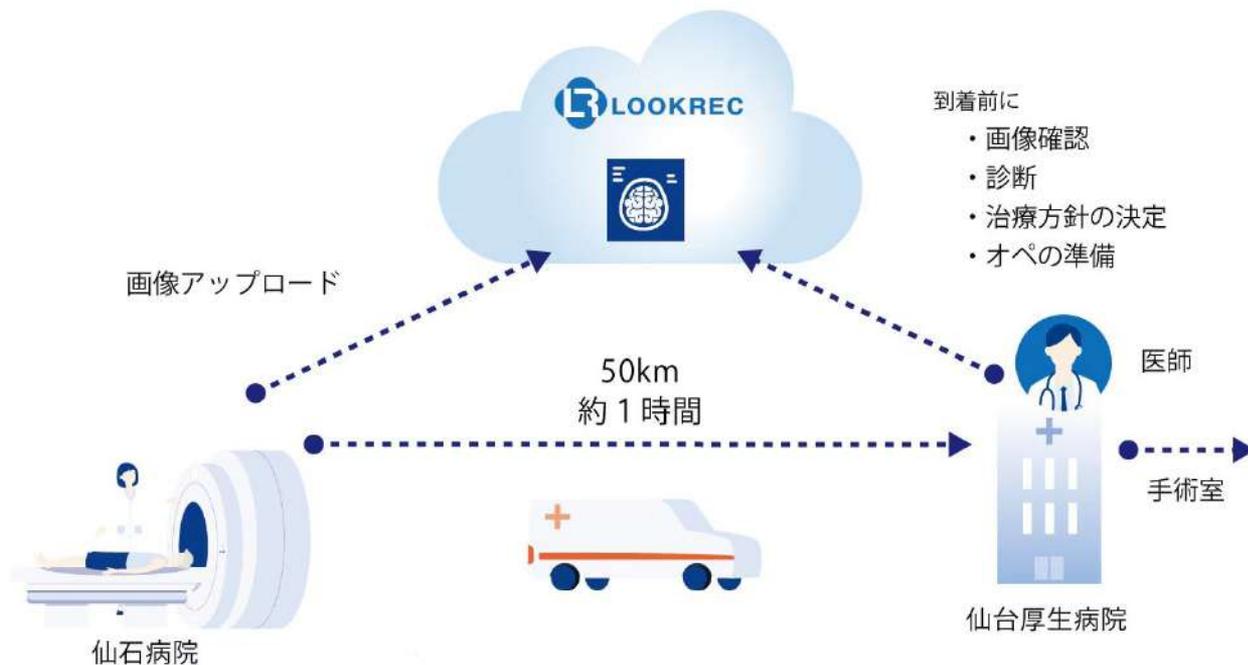
## ■ LOOKREC導入後の効果

### 病院に到着して最短40分でオペを始められるケースも

高速道路を使っても石巻から仙台まで1時間くらいかかるので、その間に画像確認、診断、治療方針の決定などができることもあります。実際の救急はとてもゴタゴタしているので理想論ではありますが、**病院到着から最短40分程度でオペを行えるケースもありました。**ただ、インフォームドコンセント(手術の同意)を取る必要があるのが最短だと思います。

LOOKRECがないことを考えると、患者が病院に到着して、そこで他の病院で焼いてきたCD-ROMを取り込み、CTの画像を見て、その場でドクターが手術が必要か判断し、外科の先生にも判断を仰ぎ、これは手術しようとなつてはじめて病棟にあがって段取りします。看護師や夜中だったらスタッフをそこから呼び出します。それを、**到着前に画像情報にアクセスすることで手術までの時間を大幅に短縮する、**ということを目指してやっています。

# 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮



医療機器販売名: ルックレック  
医療機器承認番号: 227AGBZX00096000

# 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮



救急以外にも、画像があることで治療戦略のディスカッションができる

救急だけではなく消化器内科でもよく画像のやりとりはしています。よく紹介いただくのはすい臓がんとか胆管がんとか、高度に専門的な治療が必要な疾患です。

これらは画像の読影が難しいのがありますが、これらのがんがあった時にどういう処置ができるか、黄疸が出た時にそれを解消してあげることができるかどうか、といったことは消化器の専門の先生が画像を見ればわかります。

放射線科の先生が診断した後、治療するとなったときの目線で、こういう風に内視鏡の治療ができるという**次のステップの意見が画像があるとすぐに言えます**。だからよく相談をいただくのが、黄疸で体が真っ黄色になってしまってCTとかの写真を共有してもらおうようなケースですね。多分ここにがんがある、結石が詰まっている、ということディスカッションします。**その日のうちに来た方がいい状態なのか、スケジュールを考える余裕があるのか、ディスカッションできます**。このディスカッションするのにも、画像がない状態で言葉だけで説明されても全くわからないので、**画像がないならとりあえず来てください**となってしまいうんですよ。

仙台厚生病院では画像をLOOKRECで送ってもらうのが常態化していて、胆管の疾患のようだったらすぐに画像を見て、これなら待てるから来週頭の転院にする、などの判断に使ったりしています。仙台厚生病院のメインの診療科である循環器、消化器、呼吸器でLOOKRECは使っています。

# 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

## CONSTANTに患者さんを紹介いただいている

地域医療連携というと各地域でそれぞれのネットワークを作っているようですが、導入が大変だったり、コストがかさむと聞いています。その点、LOOKRECは安価ですし、簡単ですぐ使えました。

アプリケーションの導入は問題ありませんでしたが、誰がどのタイミングでデータをアップロードするかというような運用方法を整備するのに時間がかかりました。CTを撮り、仙台厚生病院に送るとなったときに、誰がこれをアップロードするのか、どの端末にアップロードするのか、医師の確認のタイミングなどですね。

最近になって1年分を集計してみたのですが、救急と通常の消化器や呼吸器のそこまで急がない患者さんの相談も合わせて60件くらいでした。多い月で5例くらい、3、4例くらいはCONSTANTで紹介していただいているようなペースです。

これからも使い続けていくつもりですので、引き続きアップデートを期待しています。



## 事例① チーム医療で救急搬送から手術までの時間を短縮

齋藤先生にはセミナーにもご登壇いただき、当時の状況などを詳しくお話しいただいております。

アーカイブ動画の配信をしておりますので、是非[こちら](#)からご覧ください。

医師視点  
で解説!

MNES

### 地域医療連携の始め方

～システム導入で連携をもっとスムーズに～

【無料ウェビナー】

3月22日 13:00-14:00

相馬中央病院  
消化器内科専門医  
齋藤 宏章

株式会社エムネス  
取締役副会長ファウンダー  
画像診断専門医  
北村 直幸

お申込み

## 事例② 医療法人社団健心会 みなみ野循環器病院 クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

---



## 事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進



医療法人社団健心会 みなみ野循環器病院 様

【業種】循環器内科中心の単科病院

【お話を伺った方】

放射線技術部長 兼 診療放射線技師長：望月 純二 様

【課題】CD-ROMを使用していた画像連携だとタイムラグや見れないという問題が発生していたり、他科の先生に相談する際に出向いて頂かなくてはならない

- 導入の背景 近隣クリニックや病院との画像連携をクラウドを使って、もっと手早くリアルタイムに画像連携をしたいと思っていたところ、展示会で声をかけられて
- 導入の決め手 Google基盤という**セキュリティ面の安心感** と紹介元からはお金を取らないという**料金システム**
- 導入後の効果 **画像をリアルタイムに共有することで、同じ画像を見ながら相談できるようになった** 。近隣の先生に相談する際に、移動していただく必要がなくなった。

## 事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

### ■ 導入の背景

#### 近隣クリニックとの画像共有にクラウドを活用したいと考えていた

当院ではCTに力を入れており、地域のクリニックと連携してCT患者を受け入れています。そこで、クラウドを活用して画像共有をできたらいいと考えていたところ、展示会で声を掛けられたのがきっかけです。話を聞いてみたところ、これぞ正に探していたシステムだと思いました。

導入前はCD-ROMを患者に渡しても、クリニックで見れないことがたまに発生していましたし、画像を診てもらうまでにタイムラグが発生していました。また、呼吸器など専門外の疾患の場合には、専門の先生に来てもらったり、地域連携の担当者が車でCD-ROMを持って行ったりもしていました。

## 事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

### Google基盤という安心感と導入しやすい料金システムが決め手

他の会社のシステムも検討しましたが、他社の場合は地域連携の際に紹介元からもお金を取る料金システムが多く、それが導入のハードルを上げてしまいます。当院でも別のシステムを紹介元として導入してほしいと言われたこともあります。あまり件数がないのに月額費用がかかるということからお断りしたことがあります。その点、エムネスの場合は紹介先である当院での支払いのみでいいですし、サブスクのサービスということで導入へのハードルがとても下がりました。

また、紹介元は技師が少ないところが多いため導入にあたり懸念もありましたが、使いやすさとGoogle基盤という安心感で、トラブルなく導入まで進めました。



## 事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

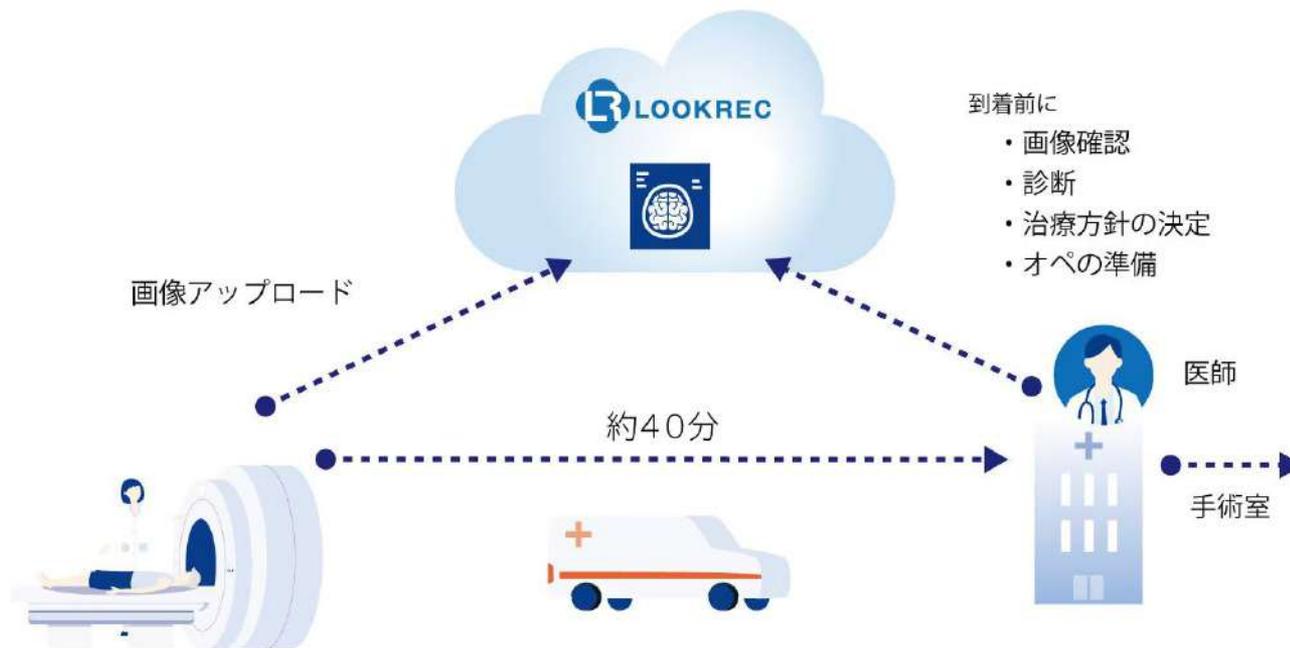
### ■ 導入後の効果・満足度

#### 画像をリアルタイムに共有することで、画像を見ながら相談できるのが大きなメリット

LOOKREC導入後は、CD-ROMを使って画像共有していたものを全てLOOKRECを使用してクラウドで共有できるようにしました。1番のメリットは、これにより画像をリアルタイムで共有し同じ画像を見ながら相談できるようになったことです。

当院は循環器内科のため、カテーテル手術はできても外科手術はできません。そのため、車で40分ほどかかるところにある心臓血管外科の病院と連携しています。例えば、血管剥離の患者さんなどを救急で送る際、LOOKRECで画像を事前に連携することで、患者さんが到着する前に画像を先生が確認できている状態になっているためスムーズに治療に入れます。また、患者さんを送る前に画像を見てもらい、コンサルをお願いすることもでき、このメリットは相当あると思います。

## 事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進



医療機器販売名：ルックレック  
医療機器承認番号：227AGBZX00096000

## 事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

### 画像だけでなくレポートもクラウドでリアルタイムに共有が可能に

容量制限がないため、過去画像や拡大したものの追加、一般画像、エコー、カテーテルなど多くのデータをまとめて保管しておけるのもメリットだと思います。アップロードだけでなく、ダウンロードができるのもいいですね。

もちろん、CDに焼くという手間もなくなりましたし、レポートの共有も後日かFAXだったものが、PDF化したものをLOOKRECにアップロードするだけで共有できるようになりました。

満足度は100点中90点です。オーダーを立ててから、検査ごとに1つ1つ紐づけをしないといけない点がめんどくさいので、人単位で紐づけたい検査に☑をしてまとめて一括で紐づけできると嬉しいです。ですが、それ以外は使い勝手もいいですし、ビューアも良いです。Googleアカウントでできるというのも評価のポイントです。当院の場合、院内でGメールを使っているのも、セキュリティ面でも手軽さでもいいですね。

ログイン情報が取れるのでセキュリティ面でも安心で、当院の先生も院長の反応も良好です。コンサル機能を使え、呼吸器の先生に来ていただくなくても画像共有できるようになった点もよかったです。

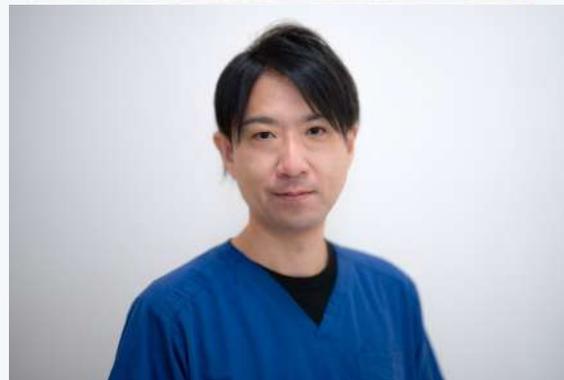
## 事例② クラウド型プラットフォーム活用で地域医療連携を促進

### ■ まとめ・今後の展望

#### 今後は更に地域医療のネットワークを広げていきたいです

みなみ野は地域的に開業医が多く、CTを持っているところが少ないため、今後は更に地域医療のネットワークを広げていきたいです。当院の費用負担を増やしてもいいので、連携できる施設をもっと増やしたいです。

サブスク(導入費用がかからない)のでできるのでやってみて嫌なら辞めたらいいですし、CD-ROMで画像をやり取りしている施設にはLOOKRECをまず試してもらいたいです。



# クリニックでの活用事例

---

## 事例③ 霞クリニック

# LOOKRECで検査画像をリアルタイム共有

---



## 事例③ LOOKRECで検査画像をリアルタイム共有



### 霞クリニック 様

【専門】放射線診断専門医

【業種】クリニック(放射線診断科)

【お話を伺いました方】

霞クリニック院長 北村 直幸先生

霞クリニック技師長 診療放射線技師 上田 英弘氏

【課題】オンプレミスのPACS費用が高い。検査画像の共有が不便。

- 導入の背景      クリニックを継承する際、オンプレミスのPACS費用が高額で費用を抑えたかった。検査画像の共有をもっとスムーズに行いたかった。
- 導入の決め手      導入費・更新費用がかからない。CD-ROMでの画像共有から脱却できる。
- 今後への期待      紹介元の病院とリアルタイムで画像を共有できるようになり、患者さんが来院する前に検査結果を確認できるようになった。CD-ROMを焼いたり確認していた業務時間が削減された。

## 事例③ LOOKRECで検査画像をリアルタイム共有

### ■ 開発・導入の背景

#### 医療画像をメディアを介さずにやり取りするのが自然だと思った

(北村先生) 2015年に「霞クリニック」を引き継いだ当時、既に遠隔画像診断センター「エムネス」ではLOOKRECを導入していました。そのため、遠隔画像診断センターでの**メディアを介さない医療画像共有を病院間でも行えるようにしたい**と思いました。

CD-ROMを送る側は焼かないといけないし、もらう医療機関側は管理(処分)に困ります。霞クリニックでは患者さん(希望者)にもCD-ROMをお渡ししており、医療機関と患者さん分を焼く必要がありました。LOOKRECを導入すれば、その**手間や時間を全て削減**できます。

また、当時クリニック向けLOOKRECは開発中だったため、**オンプレミスのPACSを利用していましたが費用が高いことも課題**でした。そこで、導入費・更新費0円の診診連携、病診連携のシステム「LOOKREC」開発をすすめました。

## 事例③ LOOKRECで検査画像をリアルタイム共有

### ■ LOOKREC導入後の効果

#### 広島大学病院など外部の医療機関とリアルタイムで画像を共有

(上田氏) 例えば広島大学の例でいくと、従来では患者さんが紹介状と一緒にCD-ROMなどを連携室の受付に持って行き、スタッフさんが画像を取り込み、という流れがあったところが、今は連携して霞クリニックで画像を撮影した直後に大学側がワンクリックで画像をダウンロードできるようになりました。当日検査でもすぐ画像が見れるようになりましたし、当日撮影分を翌朝まとめてダウンロードできるようになりました。また、患者IDも大学病院での患者IDでダウンロードできるため、大学病院側でのID書き換えの手間もなくなりました。

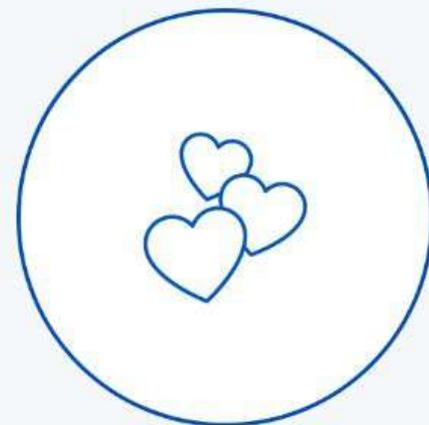
予約時間などもわかっているため、紹介元医療機関がクリニックなどの場合は予約時間から検査終了時間を逆算して画像ダウンロードに備えてらっしゃる先生もいて、検査が少し遅れていたりするとお問合せのお電話をいただくこともあります(笑) 本当にそれほど、リアルタイムで画像連携が可能です。

## 事例③ LOOKRECで検査画像をリアルタイム共有

### 業務効率改善はもちろん、ストレスも軽減

(上田氏) CD-ROMを焼く際には検査画像の内容確認だけでなくPDIチェックという確認作業も行っていますので、CD-ROMを焼いてチェックを終えるまでに1件10～15分ほどかかります。広島大学との画像連携が可能になったおかげで、計算上3時間以上の業務時間を削減できました。

また、焼き間違いやデータの取り違いがないかを気にしなくてよくなったのも大きいです。郵送した後の不安もないですし、画像持ち込みだと長くなっていた患者さんの待ち時間や、医師側の画像が届くまでの待ち時間などもなくなり、皆のストレスフリーに繋がっていると思います。



## 番外編① N2クリニック四谷

クリニックでの治療と経過観察、紹介までの一連の画像管理に

---



## 番外編① クリニックでの治療と経過観察、紹介までの一連の画像管理に



### N2クリニック四谷 様

【専門】神経内科、がん治療

【業種】クリニック

【お話を伺った方】N2クリニック四谷 院長 照沼裕先生

【課題】今後患者さんが増えていくのかどうか不透明＆お金がない中で多大な初期費用を投じてサーバを用意するかどうか

- 導入の背景  
当院の患者さんは主にかんの方で、患者さんの状態を **画像で確認しなければいけない**のでDICOMビューワは必須
- 導入後の効果  
USBはコンピューターウイルスに感染しないかなって心配。LOOKRECはDICOMファイルしかアップロードできませんよね。 **LOOKRECでフィルタリングされているので安心**。
- 今後の展望  
海外からの患者さんの受け入れに活用したい。プライベートで気軽に相談できるような先生に、 **紹介の意味があるかを事前に確認してもらったり相談したりするのによいシステム**

# 番外編① クリニックでの治療と経過観察、紹介までの一連の画像管理に

## ■ 導入の背景

### 患者さんの状態を画像で確認しなければいけないのでDICOMビューワは必須

N2クリニック四谷にいらっしゃる患者さんは主にがんの方で、主治医のもとで標準的ながん治療をしていただいた上で、プラスするものとして免疫細胞治療などを希望して来院されます。がん再発防止のために通われている方もいます。

また、当クリニックでの治療だけでなく、陽子線・サイバーナイフ・MRTなどの先進的な治療を受けられる病院を紹介をすることもあります。来院時にも紹介する時にも、患者さんの状態を画像で確認しなければいけないのでDICOMビューワは必須でした。さらに、当院で扱うのはCT、MRI、PETのような容量の大きな画像ばかりなので、コストがかかるのは避けられないと思っていました。

## ■ 導入の決め手

### 患者さんが今後増えても柔軟に拡張できることに魅力を感じて導入

開業時はCOVID-19の感染が拡大していて、今後患者さんが増えていくのかどうかも不透明。お金がない中で多大な初期費用を投じてサーバを用意するかも迷っている中、LOOKRECを知ることができました。クラウド上にデータを保存して、必要な時にそれを引き出すことができ、患者さんが今後増えても柔軟に拡張できることに魅力を感じて導入しました。



# 番外編① クリニックでの治療と経過観察、紹介までの一連の画像管理に



## ■ LOOKREC導入後の効果

### 来院時、経過観察、紹介する時、画像を確認

免疫細胞療法というのは、患者さんの血液細胞を加工して免疫細胞を作り体に戻すことでがんを闘ったり、予防したり、再発防止したりします。

来院前に治療の適応を判断する、治療中に改善の状態を確認する、など毎回のよう画像を見ますので、ビューフが活躍しています。

また、当院だけで完結しないことがほとんど。

基本的には主治医のもとで標準治療をしてもらいながら、ここで行うのはオプションとして追加する治療です。また、より適した他の治療を紹介するにしても、**画像のやり取りが発生します。ファイル共有ツールもいろいろありますが、いちいちダウンロードするのは怖いし、サイズが大きいと時間もかかって大変です。**

## LOOKRECがフィルタリングしてくれている安心感

N2クリニックに来る患者さんはほぼご自身で画像を持って来られます。本当は先生と先生、医療機関での画像のやり取りがクラウドでできるといいと思いますが、大きな病院ではセキュリティに対する意識がコンサバティブですから、CD-Rを介することになってしまいますね。

海外から来る患者さんとCDやUSBから持って来られるんですが、特に**USBはコンピューターウイルスに感染しないかなって心配してしまいます。LOOKRECはDICOMファイルしかアップロードできませんよね。LOOKRECでフィルタリングされていると思えるので安心です。**



## 番外編① クリニックでの治療と経過観察、紹介までの一連の画像管理に

### ■ 今後の展望

#### 海外からの患者さんの受け入れに活用したい

LOOKRECを導入していない先生にも一定期間画像を見られるようにして共有できる、コンサル機能は便利ですね。今までは全部CDを送って、「手術の適応はありますか？血管内治療の適用はありますか？」というようなことを聞いていました。プライベートで気軽に相談できるような先生に、紹介の意味があるかを事前に確認してもらったり相談したりするのによいシステムですね。

日本のがん治療はブランド力が非常にあるだけでなく、先進的ながん治療の種類としても選択肢がたくさんあります。オーストラリア、ニュージーランド、それからあとはベトナムあたりの患者さんがハイレベルな日本の医療を受けたいと言っていらっしゃいます。

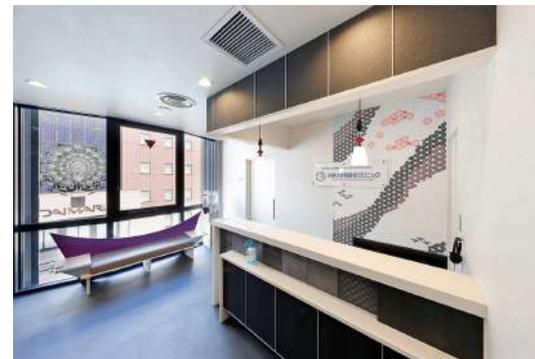
LOOKRECももっと世界中に広がるといいですね。



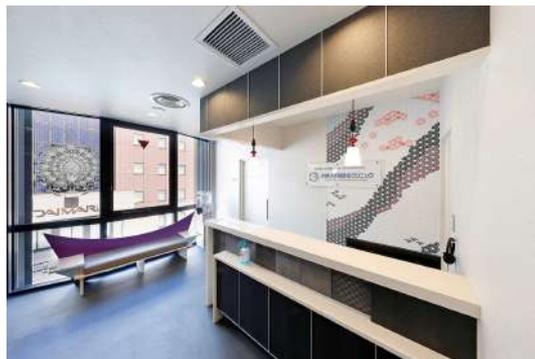
## 番外編② 医療法人社団活寿会

### クリニック間の連携が可能なクラウド型 PACSとして

---



## 番外編② クリニック間の連携が可能なクラウド型 PACSとして



医療法人社団活寿会 様

【専門】変形性膝関節症

【業種】クリニック

【お話を伺った方】理事 吉野氏

【課題】クリニックとして成長途上にあるため、患者数や院数の増加に伴うコスト増が将来的に大きな問題になる

- 導入の背景 提携MRI施設で撮影したデータをCD-ROMで保管していたが、保管場所の問題が生じていた。また、院内の複数箇所での同時閲覧ができないことも課題だった。
- 導入後の効果 治療前後の画像比較が以前と比べてより簡便かつ詳細に行えるようになりました。
- 今後への期待 提携MRI施設への導入拡大により、撮影データがリアルタイムでクリニックに届くような未来が実現すれば、診療のオペレーションの効率化やリモートでの画像診断サービスなども行うことができるのではないかと期待しています。

## 番外編② クリニック間の連携が可能なクラウド型 PACSとして

---

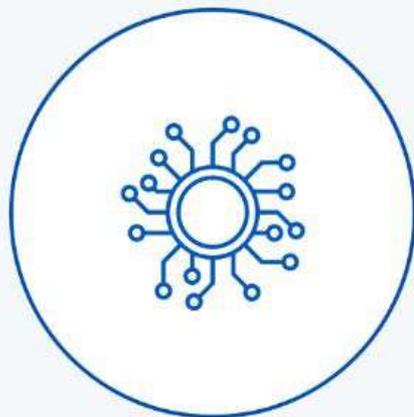
### ■ 導入の背景

#### CD-ROMでのデータ保管からクラウド型PACSへ

当院では提携MRI施設で撮影したデータをCD-ROMで使用・保管しておりましたが、患者数の増加に伴い保管場所の問題が生じて来たほか、CD-ROMからの読み出しでは院内の複数箇所での同時閲覧ができないことや、院間共有を行う際の手間とコストも課題でした。

その折に、クラウド型PACS導入に当たり複数社で検討していましたが、取引先であるセルソース株式会社より紹介を受けてLOOKRECの存在を知りました。

## 番外編② クリニック間の連携が可能なクラウド型 PACSとして



### ■ LOOKREC導入の決め手

#### 将来まで見据えたデータ増と拡張性が導入のポイント

クラウド型PACSの導入を検討した際、数社で比較しましたが、クリニックとして成長途上にある当院としては、患者数や院数の増加に伴うコスト増が将来的に大きな問題になると考えていました。

通常PACSというと高額な初期費用が発生しますが、その点LOOKRECは特別な機器の購入や設置も必要なく、導入においては大きなポイントとなりました。

また、ビューワや管理画面のUI、UXが優れているという点も高く評価しています。それに加えて、将来的にAI診断ができるようになる可能性もあるとのことで、その点においても魅力を感じ、導入を決断しました。

## 番外編② クリニック間の連携が可能なクラウド型 PACSとして

### ■ 導入後の効果・今後期待すること

#### 患者様にお見せする時、画像診断時の過去比較にも便利

具体的な使い方としては、患者様が提携MRI施設で撮影して持って来られたMRI画像データ(CD)をクラウドに取り込みます。その後、医師室での閲覧を行った後、診察室でも患者様にお見せしながら画像説明を行っています。

PACS上に画像が蓄積されることで、治療前後の画像比較が以前と比べてより簡便かつ詳細に行えるようになりました。

#### AI診断の実装で連携していきたい

変形性膝関節症におけるAI診断の実装に期待しています。当院には多数の症例データがありますので、一緒に作っていくことができたらと思っています。

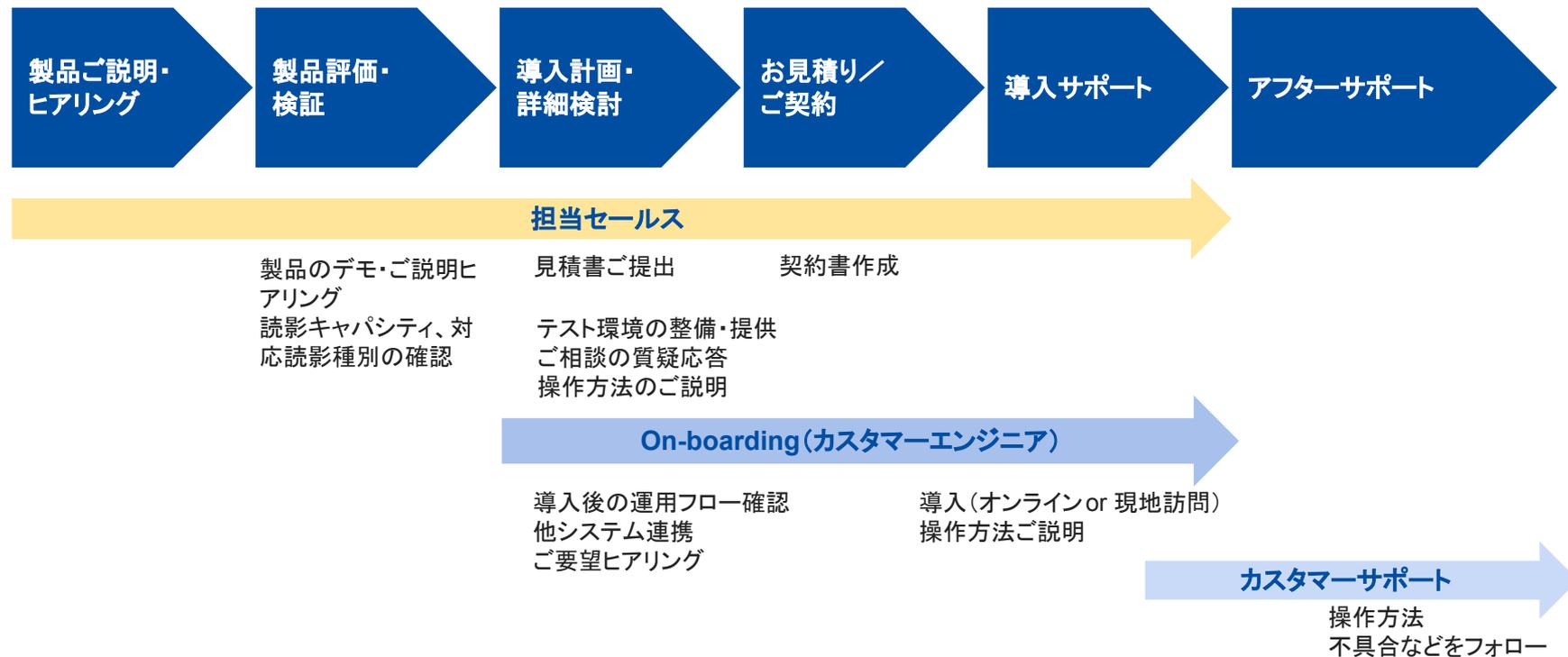
また、提携MRI施設への導入拡大により、撮影データがリアルタイムでクリニックに届くような未来が実現すれば、診療のオペレーションの効率化やリモートでの画像診断サービスなども行うことができるのではないかと期待しています。



# 導入後の流れ

---

# 導入の流れ ～Customer Engagement Process～



**無料トライアル・お問い合わせ**

---

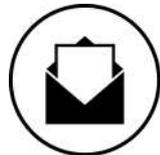
# お気軽にお問い合わせください

---



## まずは無料でお試し

こちらの[トライアルお申込みフォーム](#)より、必要事項をご記入後送信ください。  
LOOKRECのお試しアカウントが発行され 1ヶ月間、無料でお試しいただけます。



## お問い合わせ

詳しいお見積もりや、ご利用条件などお気軽にお問い合わせください。  
担当者より折り返しご連絡させていただきます。

メール: [marketing@mnes.org](mailto:marketing@mnes.org)

# エムネスについて

---

# ミッション&事業紹介

## MISSION

身体の状態をありのままに正確にリアルタイムに伝え世界中の医師や医療従事者が連携して、患者のために理想の医療が提供できるようにすること

### Medical

## 遠隔画像診断 グループ

放射線診断専門医 常勤約 10名  
その他専門医 非常勤医約 70名

#### 北村 直幸

1993年広島大学医学部卒業、  
放射線診断専門医。  
2000年に遠隔画像診断センター  
「エムネス」設立、  
「霞クリニック」院長を兼務。



### Technology

## 医療支援 クラウドサービス



LOOKREC

#### 阿部 伸一

Google のクラウド事業において  
日本法人の代表を9年間  
務めたのち2020年4月に  
エムネスの代表取締役役に就任。



データヘルス

# 会社概要

---

**会社名** 株式会社エムネス

**所在地** 広島オフィス(本店所在地) / 広島画像診断センター  
〒734-0023 広島県広島市南区東雲本町 1-2-27

東京オフィス  
〒105-7508 東京都港区海岸 1-7-1 東京ポートシティ竹芝オフィスタワー 8F

**設立** 2000年10月10日

**代表者名** 代表取締役社長 阿部 伸一

**事業内容** 医療支援クラウドサービス「LOOKREC」  
独立放射線科医/独立病理医開業支援  
遠隔画像診断サービス、遠隔病理診断サービス  
車載CT装置レンタル  
CT/MRI撮影技術指導、医用画像機器導入コンサルティング  
医療機器販売/貸与

